2008年3月期 上期
決算概要

2007年11月13日

NECエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長　中島 俊雄
http://www.necel.com/ir/ja/

エグゼクティブ・サマリ

NEC

Ⅰ. 2008年3月期 上期 業績概要

- ✓ 売上高・損益とも期初予想を上回る水準
- ✓ 着実な固定費削減の実施等により、営業黒字を回復

Ⅱ. 2008年3月期 通期 業績見通し

- ✓ 第4四半期に不透明感が残り、現時点では年間業績予想を据置き
- ✓ 引続き下期も営業黒字を最低限として、さらなる業績改善を目指す

Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

- ✓ 2月22日発表の新経営方針を着実に実行中

Ⅰ. 2008年3月期 上期 業績概要

Ⅱ. 2008年3月期 業績見通し

Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

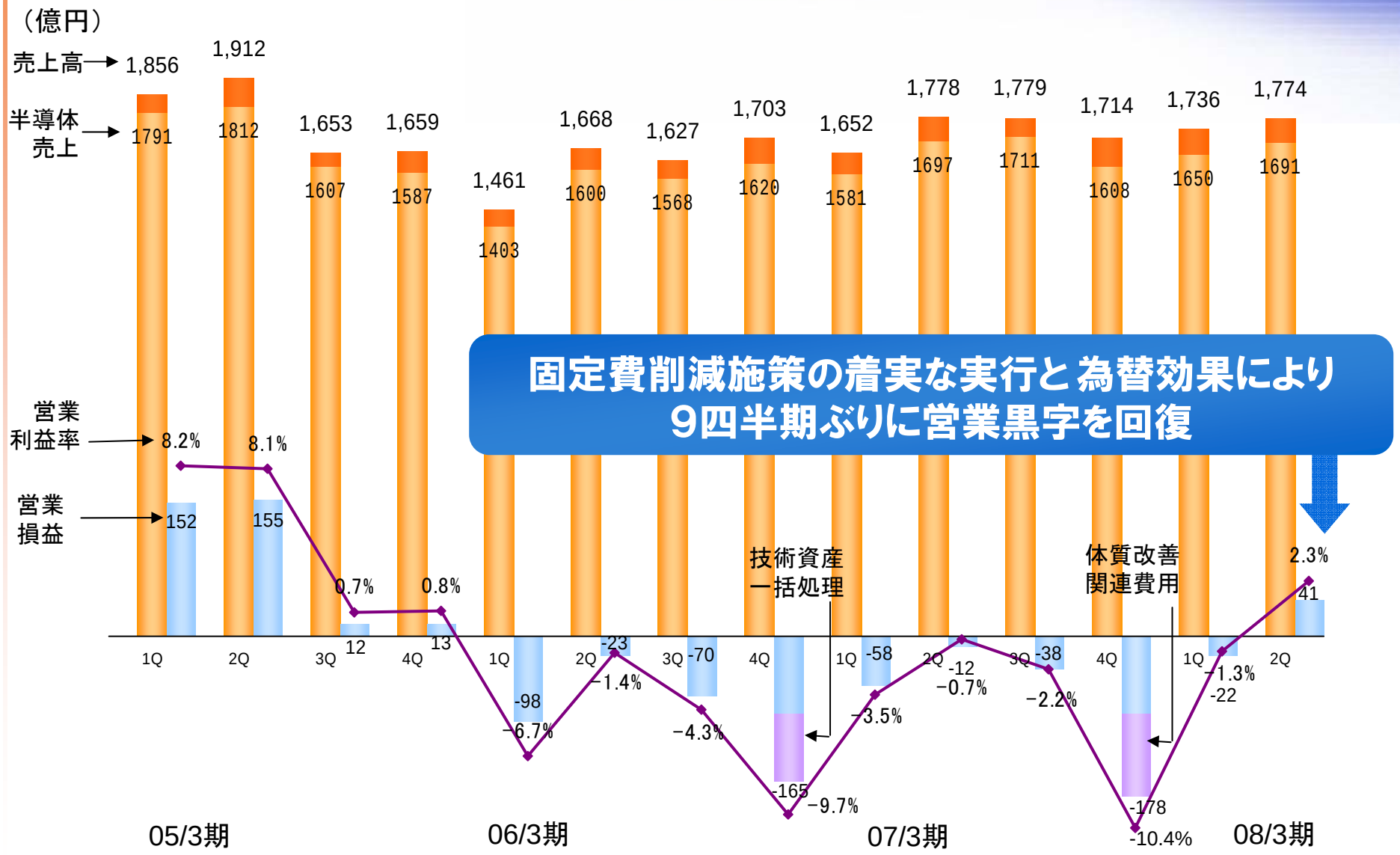
業績サマリ

NEC

（単位：億円）	08/3期				
	1Q, 6/30	2Q, 9/30	上期, 9/30		
	実績	実績	実績	前年同期比	前下期比
売　上　高	1,736	1,774	3,510	+80	+17
半 導 体 売 上	1,650	1,691	3,341	+63	+22
営 業 損 益	△22	41	19	+88	+235
税 前 損 益	4	14	18	+74	+316
当 期 純 損 益	△13	△17	△30	+44	+311
フリーキャッシュフロー	△59	162	103	△32	+355
D/Eレシオ	0.50倍	-	0.51倍	-	-
株主資本比率	39%	-	38%	-	-
為替レート	1US$=119円 1Euro=160円	1US$=120円 1Euro=164円	1US$=120円 1Euro=162円	対US$ 4円安 対Euro 17円安	対US$ 1円安 対Euro 8円安

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

四半期別業績推移

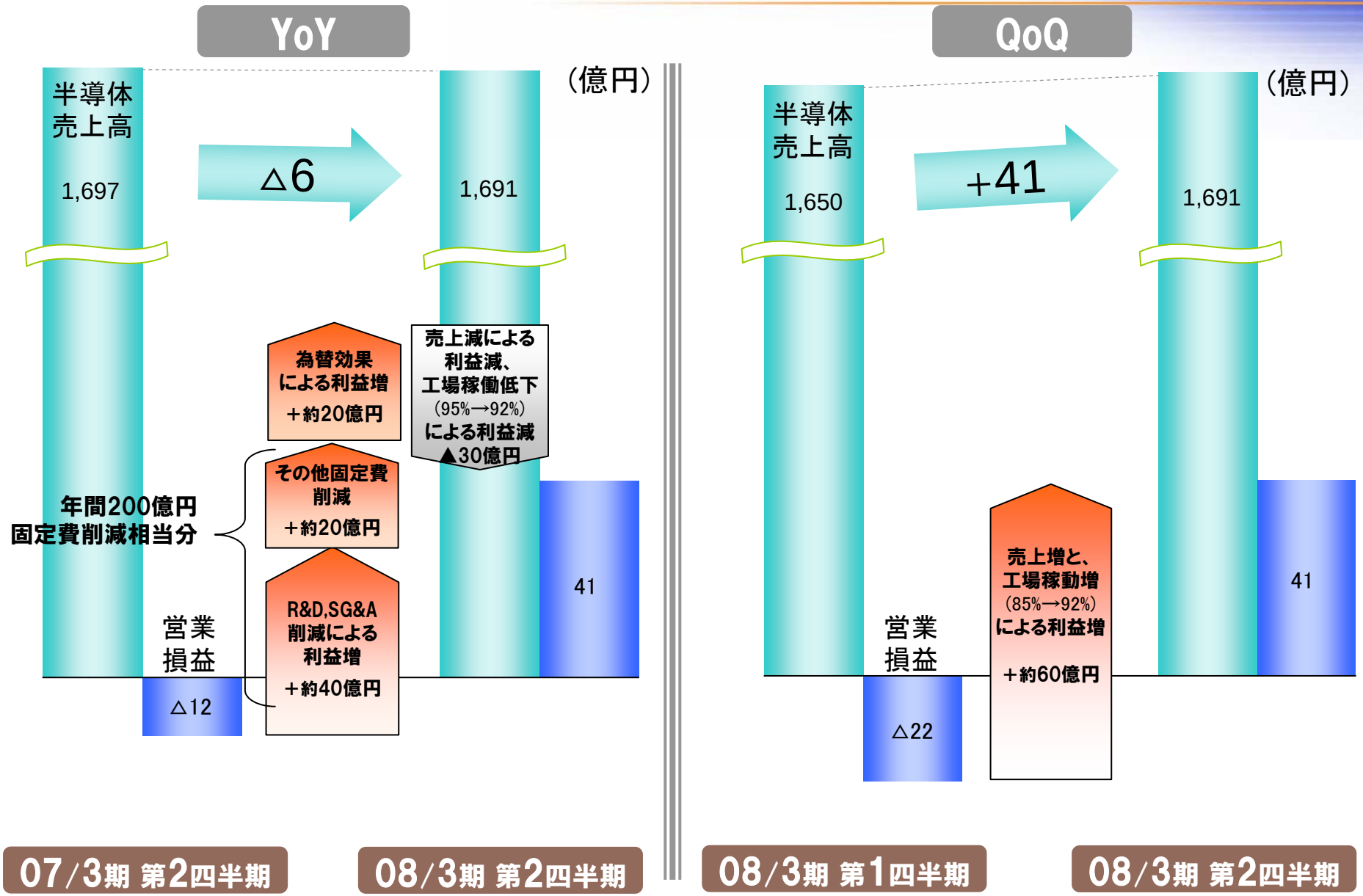


固定費削減施策の着実な実行と為替効果により
9四半期ぶりに営業黒字を回復

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

営業損益の主な増減要因

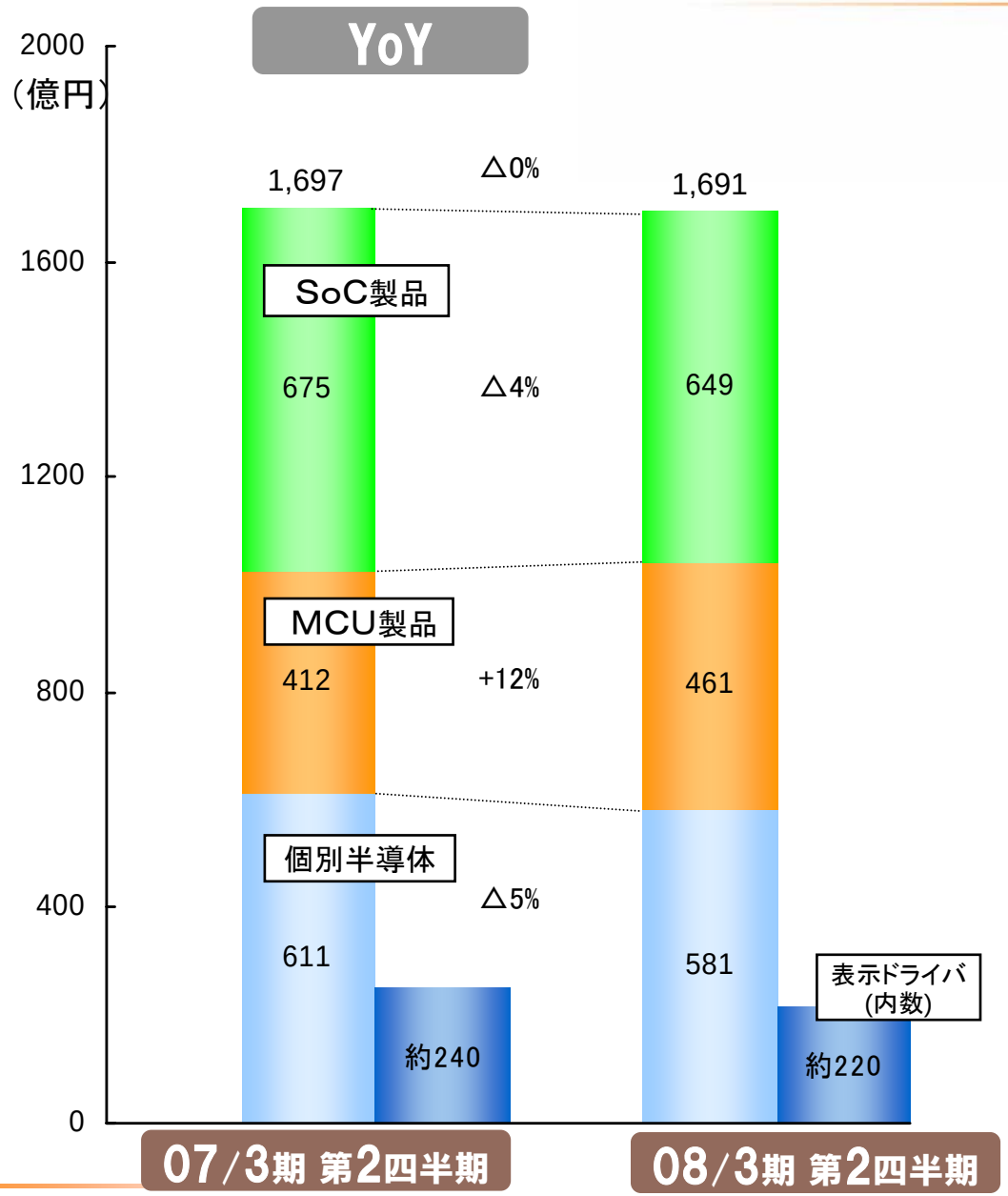
NEC



注 R&D費：研究開発費 、SG&A費：販売費および一般管理費

製品別 半導体売上高（前年同期比較）

NEC



主な変化要因

SoC製品

＋)デジタルAV用LSI “EMMA”、ゲーム用LSI、携帯電話用コンパニオンLSIの売上増

－)プリンタ用LSI、デジタルカメラ用LSI、DVDドライブ向けLSIの売上減

MCU製品

＋)自動車向け、汎用マイコンとも増収
（オールフラッシュマイコンの売上拡大）

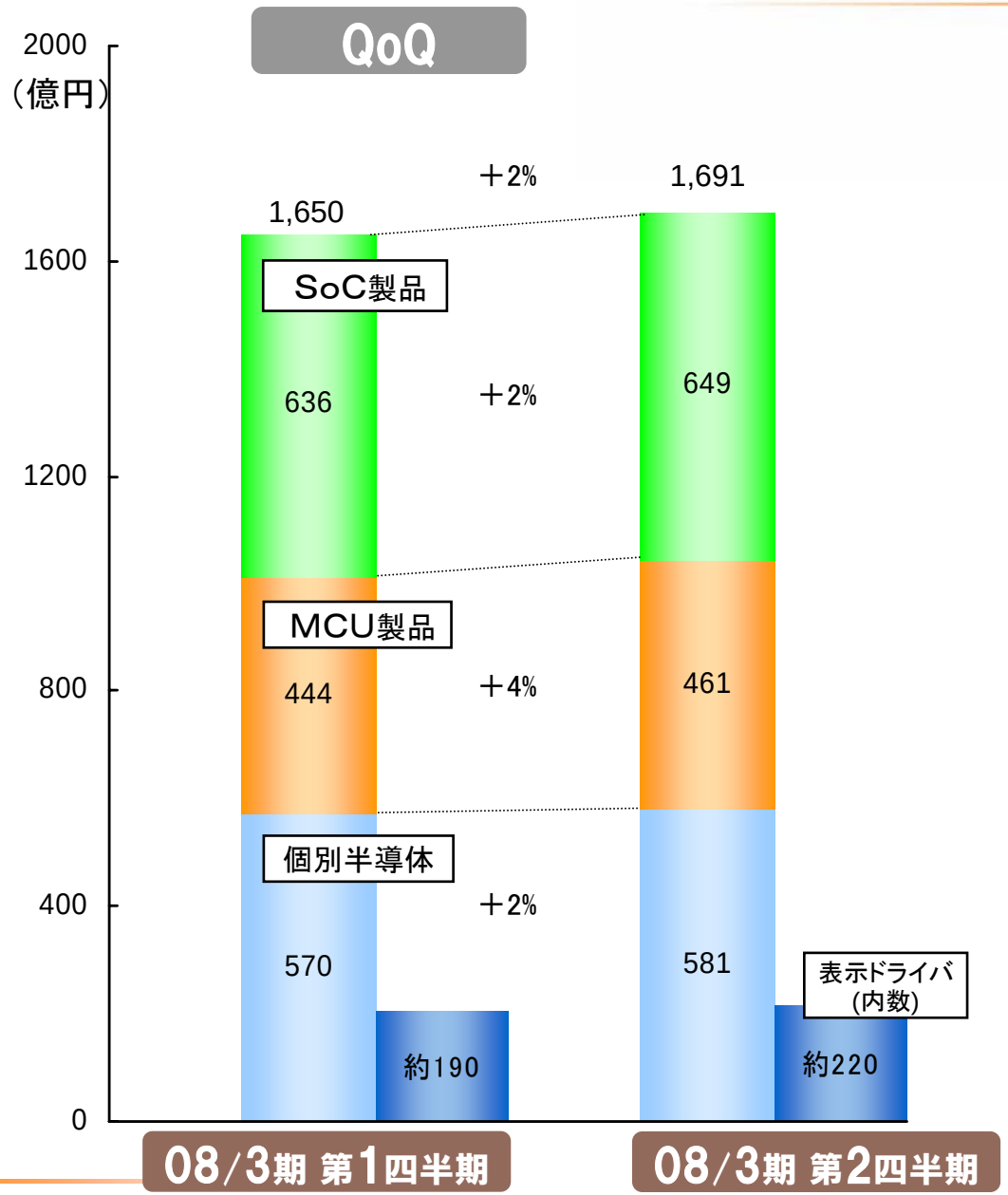
個別半導体

＋)大型LCDドライバ、ディスクリート・化合物半導体の売上増

－)小型LCDドライバの売上減

製品別 半導体売上高（前期比較）

NEC



主な変化要因

SoC製品

＋)デジタルAV用LSI“EMMA”、
PC関連機器向けLSIの売上増

－)携帯電話向けベースバンドLSI、
一部民生関連向けLSIの売上減

MCU製品

＋)自動車向けマイコン、
汎用マイコンの売上増
（オールフラッシュマイコンの売上拡大）

個別半導体

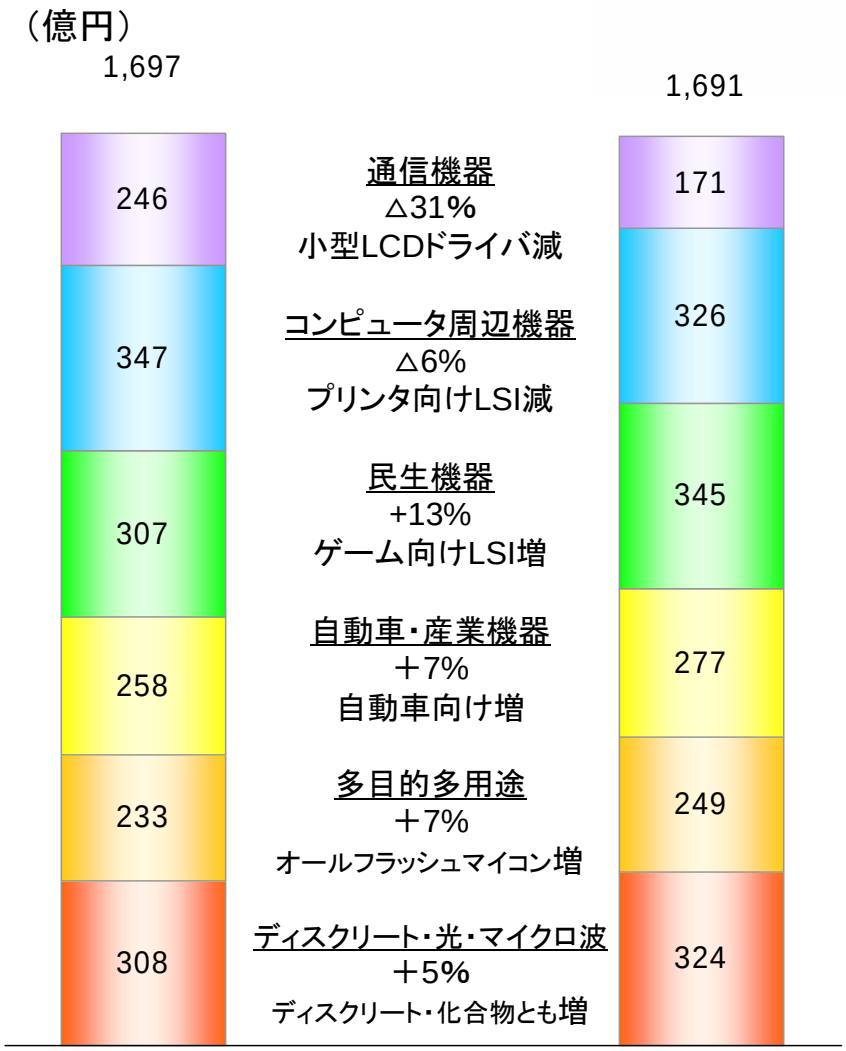
＋)ディスクリート・大型LCDドライバの売上増

－)小型LCDドライバは調整継続

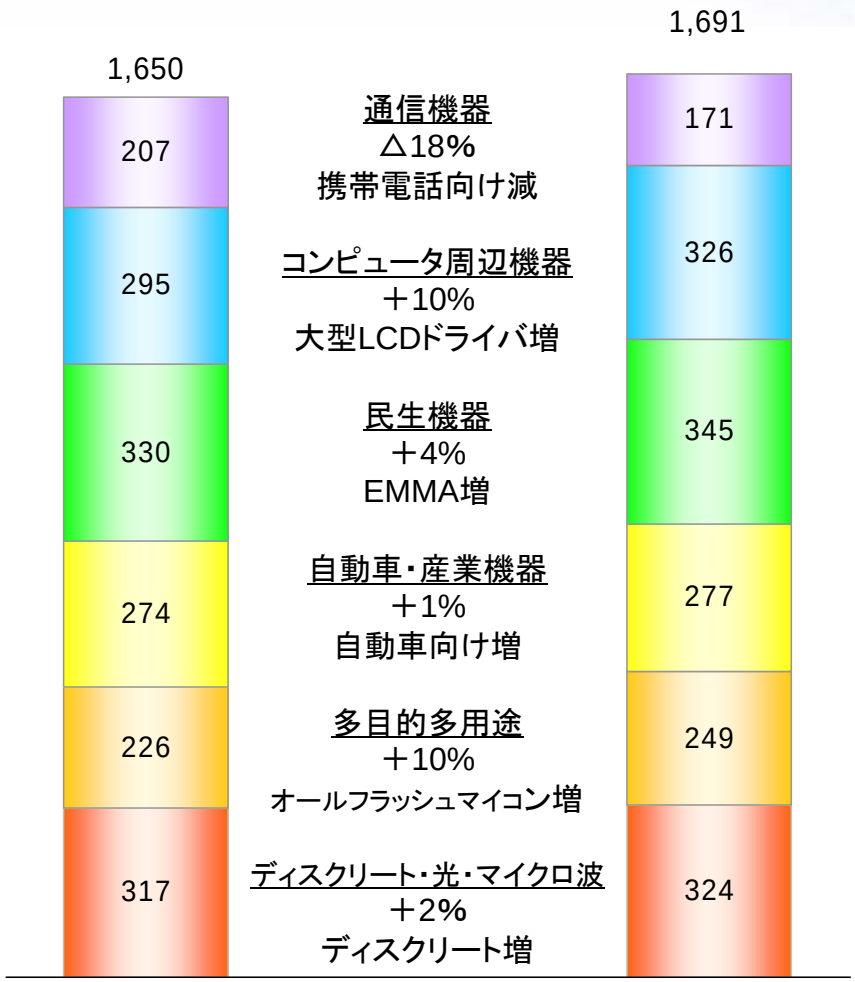
分野別 半導体売上高

NEC

YoY



QoQ



バランス・シート

NEC

（単位：億円）		06/9	07/3	07/9
	現金および現金同等物	2,220	1,854	1,914
	受取手形および売掛金	1,167	995	1,003
	たな卸資産	803	792	802
	有形固定資産	3,086	2,962	2,825
	その他の資産	494	356	336
総資産		7,770	6,959	6,879
	支払手形および買掛金	1,692	1,325	1,300
	社債および借入金	1,460	1,360	1,329
	その他の負債	1,595	1,575	1,587
負債		4,748	4,260	4,216
少数株主持分		42	48	53
株主資本		2,980	2,651	2,611
負債、少数株主持分および資本合計		7,770	6,959	6,879
D/Eレシオ（グロス）		0.49倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率		38%	38%	38%
＜補足＞				
繰延税金資産		118	107	112
繰延税金負債		108	109	137

キャッシュ・フロー

（単位：億円）	07/3期	08/3期		
	上期	1Q	2Q	上期
営業活動による キャッシュ・フロー	346	15	277	291
投資活動による キャッシュ・フロー	△211	△73	△115	△188
フリー・キャッシュ・フロー	134	△59	162	103

Ⅰ. 2008年3月期上期 業績概要

Ⅱ. 2008年3月期 業績見通し

Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

08年3月期 業績予想

NEC

第4四半期の不透明感等を考慮し、現時点では通期業績予想を据置く
下期も営業黒字を最低ラインとしてさらなる業績改善を目指す

(単位:億円)	07/3期	08/3期					
	年間	上期			年間		
	実績	期初予想 (5月14日)	実績	差異	期初予想 (5月14日)	今回予想	差異
売 上 高	6,923	3,350	3,510	+160	6,900	6,900	0
半 導 体 売 上	6,597	3,250	3,341	+91	6,700	6,700	0
営 業 損 益	△286	△50	19	+69	0	0	0
税 前 損 益	△354	△120	18	+138	△100	△100	0
当 期 純 損 益	△415	△150	△30	+120	△150	△150	0

為替レート

1US$=	117円	115円	120円	5円安	115円	下期115円	
1Euro=	149円	150円	162円	12円安	150円	下期155円	

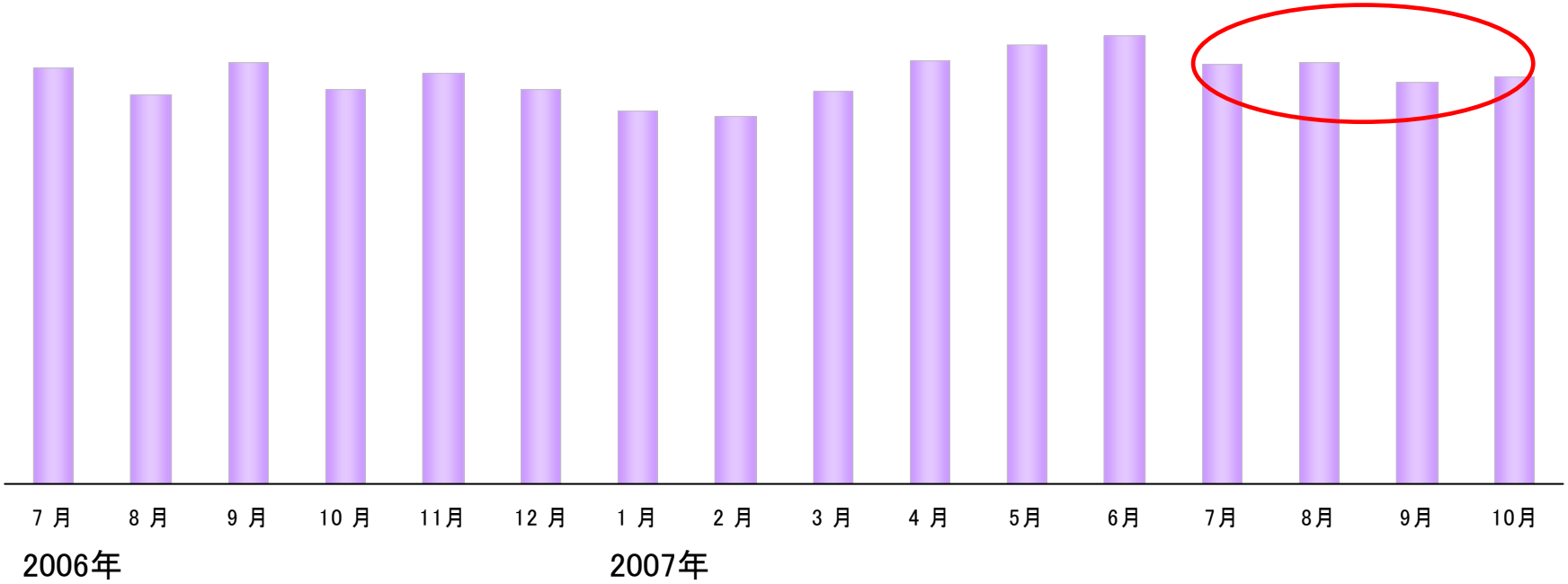
注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2007年11月13日現在

当社の受注高の推移

NEC

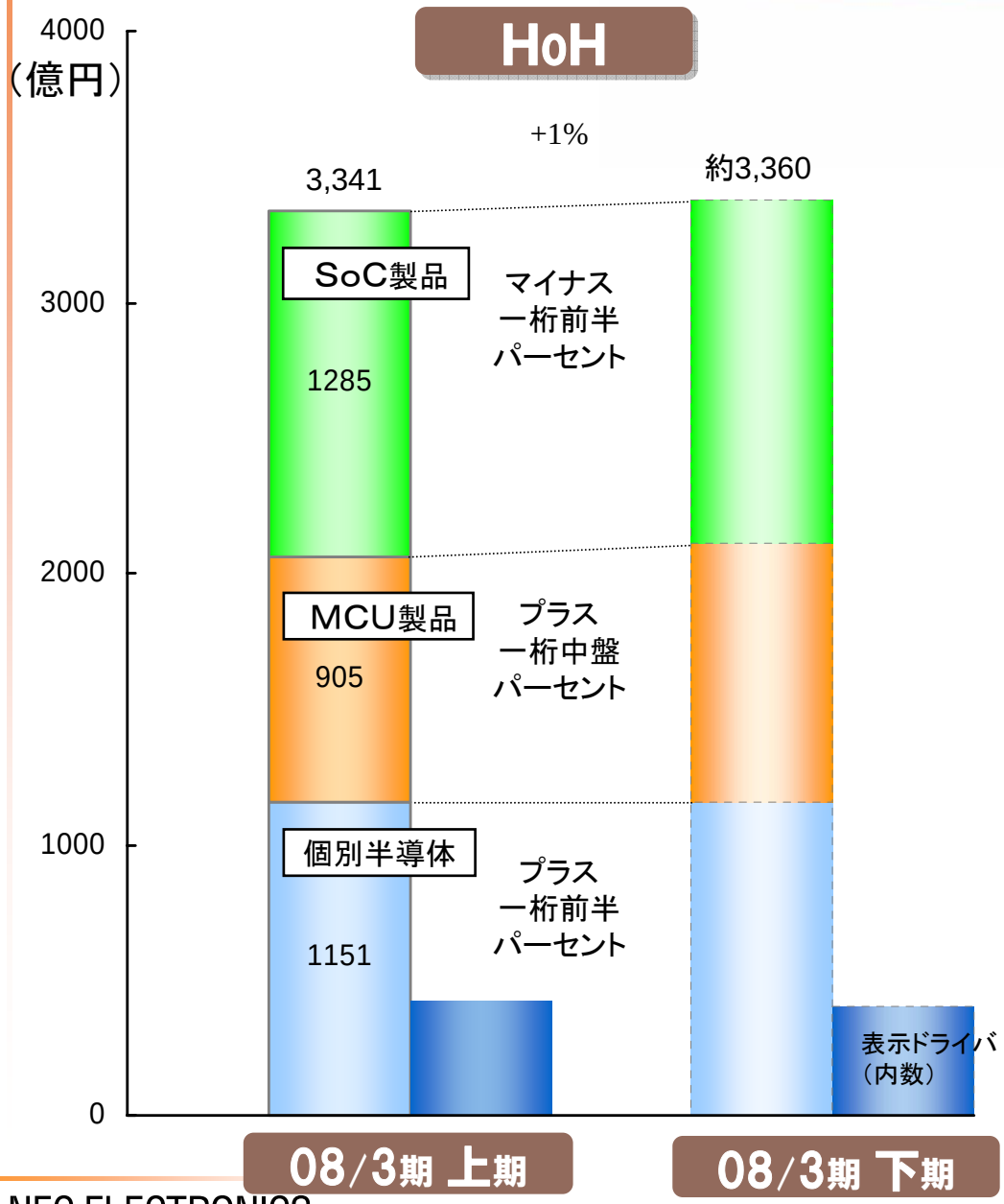
マイコン・ディスクリート等の汎用製品は堅調だが、
LCDドライバ・携帯電話関連LSIで個別要因による調整あり

月別受注高推移



下期 半導体売上高見込み（前期比較）

NEC



主な変化要因

SoC製品

＋）デジタルAV機器向け“EMMA”、
DVDドライブ用LSIの売上増

－）携帯電話向けデジタルベースバンドLSI、
デジタルカメラ用LSIの売上減

（期初計画との差 ： 約△30億円
デジタルカメラ、プリンタ向けLSIの不振等）

MCU製品

＋）自動車向け・汎用とも売上増

（期初計画との差 ： 約＋10億円
オールフラッシュマイコン好調等）

個別半導体

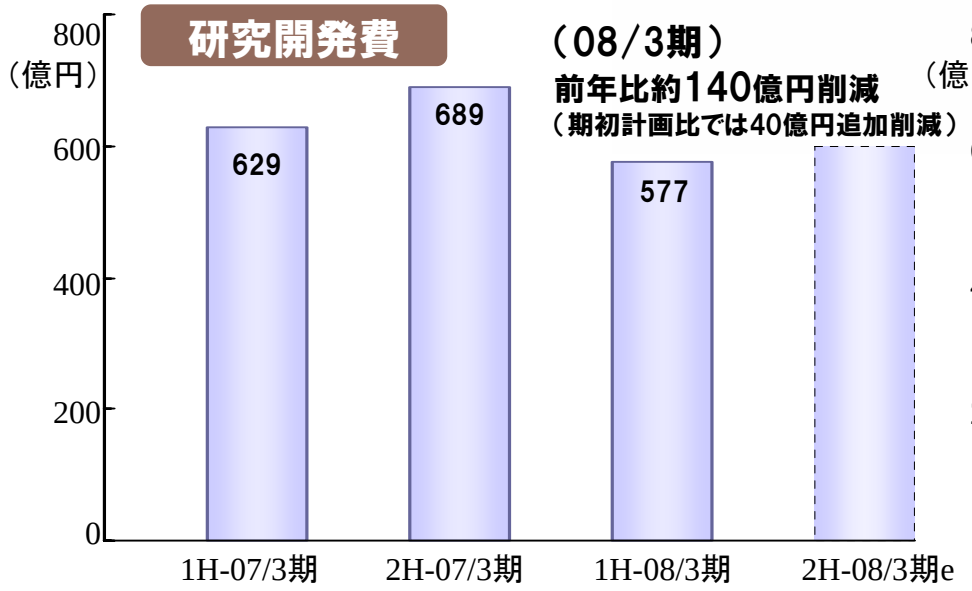
＋）小型LCDドライバの回復・売上増

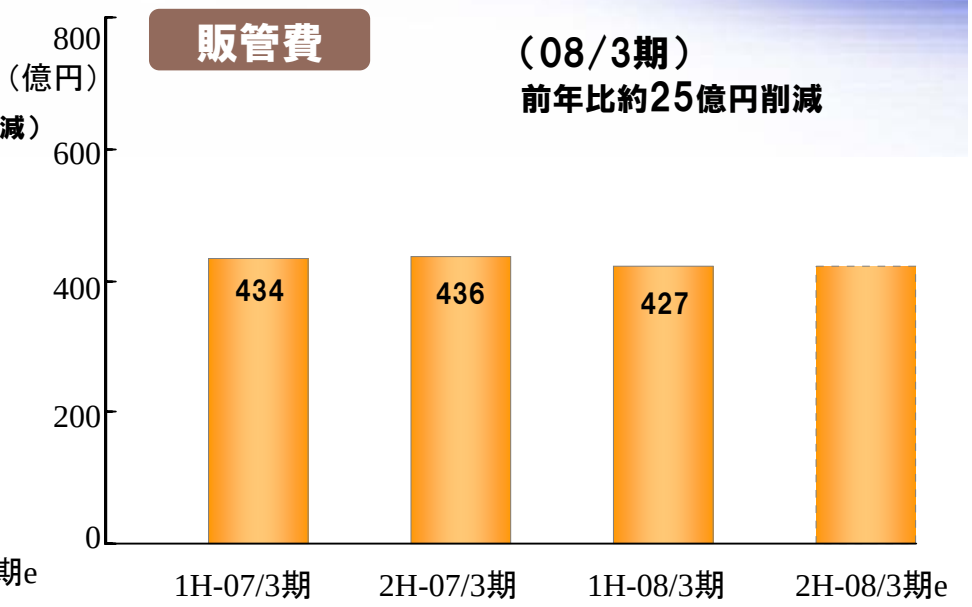
－）大型LCDドライバの売上減

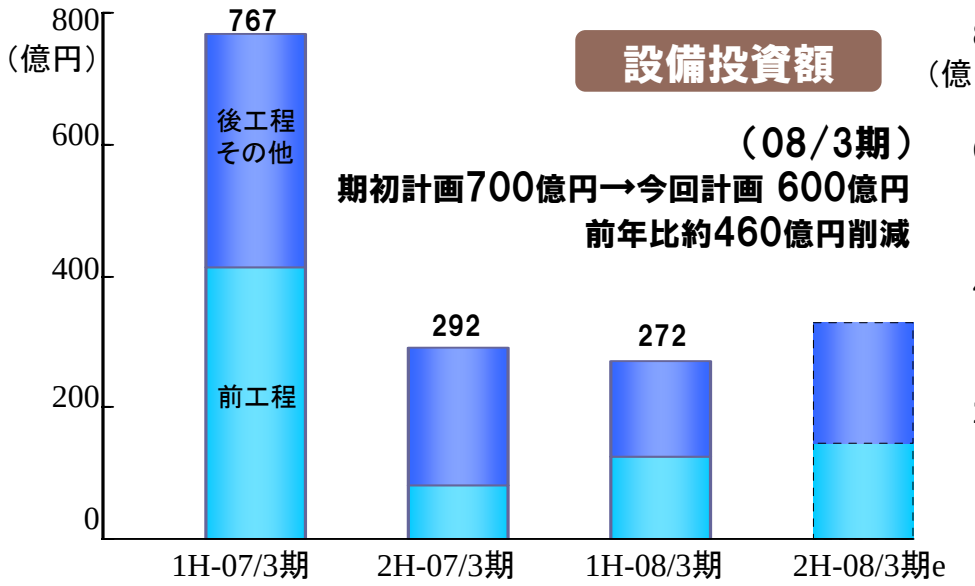
（期初計画との差 ： 約△70億円
LCDドライバの在庫調整等）

主な営業費用と設備投資の推移

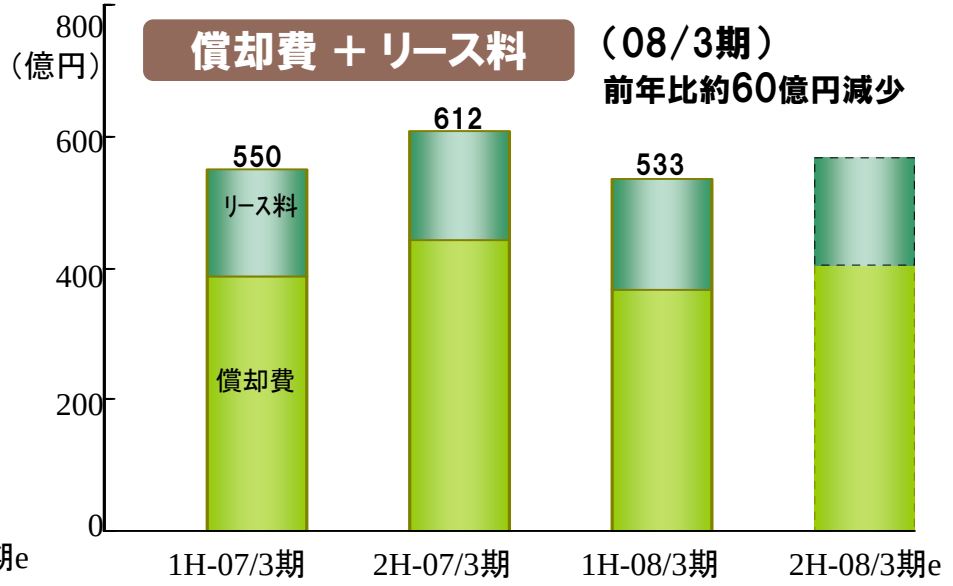
NEC







（有形のみ、納入ベース）



（償却費はキャッシュフロー表ベース）

営業外損益について

NEC

下期を中心に構造改革関連費用を計上

（単位：億円）		07/3期 年間	08/3期 上期			08/3期 下期			08/3期 年間		
		実績	期初予想 07年5月14日時点	実績	差異	期初予想 07年5月14日時点	今回予想	差異	期初予想 07年5月14日時点	今回予想	差異
営業外損益		△68	△70	±0	+70	△30	△約100	△約70	△100	△100	0
	主な雑収益		**フォトマスク事業譲渡** ➢当社子会社NECファブサーブのフォトマスク事業を大日本印刷株式会社に譲渡（2007年6月）								
	主な雑損失					**インドネシア工場閉鎖** ➢挿入実装型パッケージ後工程工場 2007年11月から清算手続き開始 **生産再編関連費用** ➢固定資産廃棄・売却損等 **訴訟関連費用引当** **その他構造改革関連費用**					

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです
注2:予想値は2007年11月13日現在

NEC

Ⅰ. 2008年3月上期 業績概要

Ⅱ. 2008年3月期業績見通し

Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

新経営方針(2/22発表)の進捗状況

NEC

新経営方針に基づいた各施策を着実に実行中

主な内容		進捗等
開発ポートフォーリオ再構築	約600人相当の技術外注削減	済み
	約400人の社内開発リソースのシフト	過半数済み (今年度中に400名完了予定)
生産体制再編		顧客交渉等実施中
前工程	➢九州8インチ、関西8インチの能力増強 ➢山形8インチ、関西6インチ、九州6インチ 各ラインの集約、大口径ラインへの生産移管	一部ラインで設備移設と生産移管を実施中
後工程	汎用製品の海外シフト	
事業組織体制	SoC、MCU、個別半導体の3事業をビジネスユニット化、損益管理強化	制度の構築完了 運用開始
固定費削減	技術外注費削減、 設備投資等の削減による生産関連固定費減 人件費含むその他固定費削減	実施中 08/3期 前年度比200億円削減予定

(進捗状況は2007年11月13日現在)

先端プロセス開発・生産方針

NEC

基幹プロセス開発の加速と差異化プロセスへの注力

- 40nmプロセス（当社55nmの次世代プロセス）
  - NEC山形で量産、来年度（2009年3月期）末から量産開始予定
- 32nmプロセス
  - 2007年末までに開発方針（他社との共同開発）を決定し、発表する
  - 生産に関しても検討、協議する

携帯電話向けLSI事業の方針

NEC

デュアル通信方式対応プラットフォーム M2 の拡販に注力

- 研究開発が一巡し、開発費は大幅に減少
- M2は今秋から出荷開始、回収フェーズに入る
- 海外も含めた新規デザインイン活動にも注力

表示ドライバ事業の方針

NEC

**市場拡大の中で高いシェアをもつコア事業として
さらに競争力を強化**

■ 戦略的な提携の構築

- ➢技術力での優位性の維持
- ➢当社の業界でのポジションを強化するための生産力のある戦略的パートナーとのアライアンスに向け交渉中

ウエハ調達コストの削減により価格競争力も向上

自動車向け事業の強化

NEC

カーナビゲーション領域に新規参入

- ARM11クアッドコア並列処理等により業界最高1920MIPSを実現
- 売上目標：100億円/2010年、300億円/2015年
- 量産開始予定：09年3月期下期

パワーMOSFET事業強化

- NEC関西に8インチ専用ライン施設
- 量産開始予定：09年3月期下期
- 生産能力：最大約10K枚/月、投資予定額：約100億円

参考：

少数特定者持株比率に関する猶予期間入り解除のお知らせ

当社株式につきましては、
本年7月10日に東京証券取引所により「株式の分布状況」（株券上場廃止）に係る猶予期間に入る旨が公表されておりましたが、上場制度総合整備プログラムの導入による改正規則の適用により、本年11月1日に株券上場廃止の猶予期間入り銘柄から解除されました。

本日のまとめ

NEC

- 上期業績は期初想定を上回り、営業黒字を回復

- 第4四半期の不透明感を考慮し、現時点では通期業績予想を据置く

  下期も営業黒字を最低ラインとして、業績改善を目指す

- 来年度以降の成長に向けて、開発の一層の効率化と他社との戦略的提携関係構築に取組む

NEC

NEC

NEC Electronics Corporation

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下NECエレクトロニクスと総称します。）の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、（１）NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。